

アトリエ 琉游舎 だより 52号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2019年5月8日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

耕す 植える 育てる

- ・連休も終わってもう霜の降りる心配もなさそうです。そろそろ種まきや苗を植え終えないと夏に美味しい野菜が食べられませんね。急がないと。
- ・4月に入ってから、鶏糞や腐葉土を入れてやっと種まきができる畑になりました。耕すという地味な作業は天気や体調を言い訳になかなか畑に足が向きませんでした。なんとか間に合いました。
- ・しっかり耕して土作りをしないと種を蒔いてもおいしい収穫は期待できません。種を蒔かなければ、育てようにも育てる作物が生えてきません。土台から始めて一歩ずつですね。
- ・耕してまた耕して3年目、心を込めて育ててきたつもりですが果たして私の畑では満足のいくような収穫はいつになったら期待できるのでしょうか。まだまだ時が必要です。
- ・「耕し種を蒔き苗を植え育てた人」がもっとも収穫の恩恵にあずかることができるはずですが。封建の世でもあるまいし、収穫だけを横取りするような地主は令和の世にはいないはずですよ。
- ・6月に3回目の「やいた片岡ロードレース」が行われます。去年は観戦広場を作ってイベントの盛り上げに一役買って出たのですが、今年はやりません。過去2回地区活性化のために手弁当で一生懸命イベント運営してきた中心メンバーが、今回は活動をしていないのが理由です。
- ・まだ耕し初めのイベントだったのに、収穫のはるか前に耕す土地を取り上げられてしまったようなのです。やっと種を蒔いたばかりなのに、誰が育てるのでしょうか。「耕す植える育てる」の苦労はすべて収穫の喜びのため。私は苦労いらずの果実はあてにしないよう肝に銘じながら、今日も畑の草取りにいそしみます。

木 金 土 日

5・6月のスケジュール

月	火	水	9	10	11	12
13	14 読書会 13:30	15	16 映画会 13:30	17	18 詩話会 13時半から	19
20	21	22	23 映画会 13:30	24	25 居酒屋の会 16時から	26
27	28 読書会 13:30	29	30 映画会 13:30	31	6月1日	2 写経会 13時半
3	4	5	6 映画会 13:30	7	8 詩話会 13時半から	9
10	11 読書会 13:30	12	13 映画会 13:30	14	15	16

写経会
6月2日(日)
13時半から

詩話会
5月11日(土)
6月8日(土)
13時半から

読書会
5月14日(火)
5月28日(火)
6月11日(火)
13時半から

映画会
毎週木曜日
13時半から

信ずる心

私は右翼でも左翼でもありません。日本の自然やそこに暮らす人々が好きで、こよなく日本の文化と伝統を愛し、命尽きるまで幸せに暮らしたいと願っているだけの普通の日本人です。ところで改元前後のあのカウントダウンのバカ騒ぎは何でしょう。私が真の右翼であればあのバカ騒ぎには天誅を下します。私が真の左翼であればデモで天皇制打倒を叫びます。でも私は普通の日本国民ですから、天皇が象徴としてわたしたちのためになされた日々の行いに思いを巡らせ感謝し、その時を静かに過ごしました。これが私が右翼でも左翼でもない何よりの証拠です。

私は「象徴としての天皇」を機能から説明するかぎり定義は不可能だと思っています。なぜならこれは口ゴスではなく信仰の範疇だからです。天皇は日本人の不幸を自分のこととして引き受けることでその不幸を祓い、幸福もまた喜び寿ぐ。それは日本人の「信ずる心」そのものの存在です。誰もが持っているはずの「何かを信ずる心」のうち、日本人の無意識の層に存在する「信ずる心」の具体的な現れが、天皇なのです。天皇は私たち日本人一人一人の「信ずる心」と一体化することによって、人々の不幸を一身に引き受けて浄化してくれる無限の不幸処理装置であり、幸福をとともに喜ぶ祝殿なのです。不幸のブラックホール、幸福のワンダーランドと言えば失礼に当たるのでしょうか。

敗戦後私達の「信ずる心」は現人神から人間天皇に宗旨替えを強制されました。天皇からあらゆる現世的御利益の機能（権力）が剥奪された結果、人間天皇は原初的役割である無意識の「信ずる心」そのものになることができたのです。誰もが平等に無条件に「信ずる心」に寄りかかることができるようになったわけですから、天皇陛下万歳と叫ばなくても、どんな形であれ「信ずる心」への尊敬と感謝の念さえあれば「信ずる心」が私達の目の前の不幸を明日への生きる希望へと浄化してくれるのです。

被災地での天皇と国民のやりとりがそれを如実に表しているでしょう。一億もの「信ずる心」を一身に引き受けたその現身はいかばかりの重圧と疲労にさらされていたのか想像もつきません。しかしそれが「象徴天皇」としての日々の行いだと悟られていたからこそ真の喜びを私達とともに体現することができたのでしよう。その様な存在を信仰の世界では「神」と呼びます。「神」はこの五月から「人」となりました。宗教家の端くれとして一連の政治ショーを演出した人たちへ忠告します。あなたたちの行為は「信ずる心」を日本人から失わせる結果になるでしょう。「神」はそれを利用したとたんもはや「神」ではなくなるのですから。

働き方改革

働き方改革という錦の御旗が、今あらゆる職場を席卷しているのではないのでしょうか？私は残念ながらその御旗の恩恵にあずかる前に退職してしまつたので、その旗が偽勅によって振られている旗なのかどうか検証のしようがないことが心残りと言えます。小学生の子どもを持つお母さんに、4月から先生の働き方改革で下校時間が大幅に変わった話を聞かされました。改革の趣旨は働き過ぎの先生の労働時間を減らすことにあることは間違いないと思われませんが、結果その小学校がとつた具体的な措置は先生が児童と接する時間を減らして、早く下校させることだったのです。文科省の通達をいち早く実行に移したと父兄への説明で校長は胸を張っていたようです。具体的な時間短縮のやり方はこうです。

まずは朝の時間帯。全校生が一堂に集まる集会や、学年一斉の読書時間、漢字ドリルの時間など、授業に入る前のアイドリング時間が全面的に廃止され、そこで一律十五分短縮。下校前の掃除が月曜と木曜の週二回に減少などで一日平均三十分下校時間が早くなったそうです。その分先生が三十分早く児童から解放され、翌日の授業準備に時間を割くことができると言う理屈です。根本を間違えてはいませんか？児童と接触する時間をどうやって長くするかが現場の先生方の最優先課題のはず。休み時間に職員室に戻って一服する時間もない現状の中で、教育効果は児童との接触時間に比例して高まると考えないと、義務教育を担う現場の先生のモチベーションはどこに求めれば良いのでしょうか。

私は会社員として働いた営業時代、デスクに居ることは仕事をしていないことと同義でした。依頼主の課題と要望を知るために会って話して聞き出すことに全精力を使い、依頼主との接触時間に比例して売り上げが上がると信じて働いてきました。「そんな考えだから働き方改革が必要なんだ」と言われればその通りです。役所の指導が入り始めると「その仕事を受けたらおまえの残業時間がオーバーするから仕事を断れ」と平気で言う上司を見かけるようになりまし。これが働き方改革の不都合な真実です。

教育効果をより高めるには、児童との接触時間を減らすより会議と上司に提出する書類を軽減する方が先決です。実は書類は誰もまともに読んではいません。チェックを入れるのは上司が自分の権限を誇示するため、書類保管は何かあったときの組織防衛のためです。ここで提案です。会議と書類を廃止すると仕事がなくなってしまう管理職や教育官僚たちは、見識も経験も豊富でしよ。うから、教育現場に戻って忙しい先生の補助をするというのはどうでしょう。先生も子供も迷惑なだけかもしれませんが・・・